

東京バッハ合唱団 月報

[第 667 号] 2018 年 1 月号

〒156-0055 東京都世田谷区船橋 5-17-21-101

Tel: 03-3290-5731 Fax 専用: 03-3290-5732 郵便振替: 00190-3-47604

Mail: office@bachchor-tokyo.jp http://bachchor-tokyo.jp/

BACH-CHOR, TOKYO

Monthly Newsletter No. 667

January 2018

5-17-21-101 Funabashi,
Setagaya-ku, Tokyo

<創立55周年記念 第115回定期演奏会>

「口短調ミサ曲」公演に寄せて

—— 青梅街道・荻窪界隈の思い出とともに ——

佐治 晴夫 (団友、理論物理学)

2017年11月23日、実に60数年振りに荻窪駅に降り立った。当然のことながら、駅周辺の変容振りには驚いたが、しかし、北口あたりには、わずかに昔の面影が残っていて懐かしかった。戦前の青梅街道は、文字通り、武蔵野の代表樹ともいわれる大きな欅と銀杏並木で、晩秋の季節になると、歩道いっぱい広がった落葉のじゅうたんの上をすべらないようにと早足で駅に向かった記憶がある。というのも、私の出生地が、この青梅街道から少し北寄りに入ったところに位置する住宅街だったのである。そんな想いを胸に、往年の新宿を思わせるような賑わいの商店街を西に向かって歩いていくと、70数年前の記憶の中にあつた蕎麦屋とお菓子屋の屋号を掲げた大きなビルがあり、思わず足が止まる。そして、その先を曲がったところに、杉並公会堂はあつた。かつて、二・二六事件の舞台ともなった要人の屋敷などが立ち並ぶ閑静な住宅街の入り口だったこの場所に、公会堂ができたことは知っていたが、訪れたのは今回が初めてだった。東京バッハ合唱団・創立55周年記念公演を聴くためだった。

演奏はすばらしかった。数学科の学生時代、教養科目の講義で、当時、音楽の講座を担当されていたバッハ研究の第一人者、辻荘一先生が、なんども熱く語っておられた「口短調ミサ曲」である。原語にはなじんでいた筆者だったが、大村恵美子先生の卓越した日本語訳には、まったく違和感がなく、音楽の中に溶け込んでいたのには驚いた。それは、バッハの音楽自体の音そのものが言葉になっていたからかもしれないし、あるいは、耳で聴くというより耳で読む言葉になっていたということだったのかもしれない。いずれにしても、言語哲学者のオースティンが言うところの“言語



■ 第115回定期演奏会・創立55周年記念《口短調ミサ曲》日本語演奏 (2017年11月23日・杉並公会堂)
写真提供: 有限会社パラビジョン

発語がもつ力”「パロキューショナリー・フォース」[J. L. Austin / Perlocutionary force] そのものが十分に発揮されていたということだろう。合唱、オーケストラ、独唱ともに、すばらしかったが、中でも一段と光っていたのは、フルートとアルトだった。演奏者のこれからの活躍に期待したい。そして、アンコール、ミサ曲の終結合唱、「平和をわれらに」を聴衆全員で歌うという経験は初めてだったが、本番演奏のときに、プログラムの資料としていただいていた楽譜を見ながら音を追っていたこともあって、なんとかついていけたのがうれしかった。思えば、オケと一緒に歌ったのは、今から60数年も昔、高校生のころ「メサイヤ」を歌って以来のことだった。

そして、終演後、楽屋に大村恵美子先生をお訪ねしたが、すぐに、「あ、佐治さん」といって声をかけてくださったことが何よりもうれしかった。1981年、西武百貨店スタジオ200でのシンポジウムに、音楽の門外漢ではあつたが、今は亡き音楽史家の戸口幸策先生のご紹介で出演させていただいて以来、30数年ぶりの再会だった。昔とほとんどかわらぬご様子にも驚いたが、私よりもお年を召していらっしゃるにもかかわらず、2時間の指揮を全うされ、お元気そうだったことは、難病ガンと同居している筆者にとっても、大きな励みを

月報1月号 CONTENTS (増頁・全6頁)

・第115回定期演奏会の会場アンケート回答 … p.3-6

— 終了報告 —

<日時> 11月23日(木/祝日) 14:00 開演

<会場> 杉並公会堂大ホール

<曲目> 《ロ短調ミサ曲》日本語演奏

<出演>

S 光野孝子、A 谷地畝晶子、T 鏡貴之、B 山本悠尋

Org 草間美也子、東京カンタータ室内管弦楽団

東京バッハ合唱団、Cond 大村恵美子

<後援> ドイツ連邦共和国大使館、杉並区

<入場者> 625名(内、招待者69名)

いただいた。大村健二氏も、以前と少しもお変わりなく、ステージ上のお姿を、客席からすぐに見分けることができたのもうれしかった。

それからもうひとつ、オルガンを弾いておられた草間美也子先生との再会もうれしかった。といっても、草間先生と親しくさせていただいていたわけではない。実は、今から47年ほど前の1970年、大阪で行われた花と緑の万国博会場で、草間先生の演奏を聞いていたのである(当時、私が関わっていた松下[電器]館では、アンリ・ルソーの絵画の色調変化から抽出された「ゆらぎ」をテーマにした音楽作品が展示されていて、その責任者として万博会場にいたのだった)。そのときのオルガンの深い響きが、美しくチャーミングな草間先生のお姿とともに、今なお脳裏に焼きついている。しかも、それだけではなかった。その後、筆者が恵泉女学園の記念式典に招かれ、生徒たち全員に対して講演をした時のこと、学園歌でステージに迎えていただいたことがあったが、そのオルガン伴奏をしておられたのが草間先生だったのである。学園歌の間奏部分のすばらしい演奏が耳に残っている。

なぜ、そこまでオルガンの音に惹かれたのか。その背景には、私自身、オルガンへのひそかな憧れがあったからだ。今から75年前の1942年(昭和17年)4月18日、第二次世界大戦勃発から半年もたたないその日の昼前、何の前触れもなく、アメリカの爆撃機B25、16機が突如飛来、日本本土初空襲だった。いわゆるドーリットル空襲である。その中の1機を目撃したのである。青梅街道から、今の環状8号線を北へ、西武新宿線井荻駅付近にあった陣地から発砲された高射砲の弾幕の間を、パイロットの顔がみえるかと思うほどの超低空でB25が1機悠々と飛んでいったのである。なんと、空襲警報が鳴ったのはその直後だった。戦勝モードに浸っていた日本への奇襲攻撃だった。当時、青梅街道沿いにあった航空機工場(中島飛行機)をねらったものだったらしい。その爆撃機は、今回の大戦で、最初の民間人犠牲者となった中学生2名を機銃掃射で殺傷した直後のB25だった。その出来事がきっかけとなって、「日本には数台しかないパイプオルガンが日本全土焦土作戦で聞けなくなるかもしれないので聞いておきなさい」という父の言葉で、はじめて日本橋三越本店に兄と出かけることになった。当時の店内の1階には売り場がなく教会堂のようになっていたが、そこで見た光景は、鉄兜を背負い、足にはゲートルをまき、腰には弾装ベルトをまいた戦闘服姿のオルガニストだった。「軍艦マーチ」、「海ゆかば」、「空の神兵(高木東六作曲)」などの軍歌の合間に、えもいわれぬ不思議な曲が流れた。そのとき、兄が耳元でささやいた。「これはバッハだよ」。以来、私は、バッハとオルガンにとりつかれてしまい、そのときから60年の歳月が経過したある秋の日、閉店後のひととき、そのオルガンに触る機会がえられた。聞けば、終戦後、空襲で痛んだオル

ガンを修理したのは、米軍兵士だったそうだ。パイプ室に入って、列車の警笛や、船が出航する折に鳴らす銅鑼の音を出す装置がついているのをみて驚いた。三越からの要請で、無声映画の伴奏にも使えるように設計されたと推測される米国ウーリッツァー社、1930製のオルガンだった。

さて、長々と書き連ねてきたが、最後に、私と音楽を結びつける大きなきっかけがこの青梅街道にあったことを記して終えたいと思う。杉並公会堂から街道沿いに西へ数百メートル行ったところに、当時Kという屋号の染物屋があり、その10代の娘さんが、住み込みで私の「お守り」をしていたようで、母の話によれば、私を寝かしつけるのに、いつも歌っていたのが「シューベルトの子守歌」だったというのである。1930年代に、初等教育しか受けていない少女が、なぜシューベルトを知っていたのか。以下は推測なのだが、日本人としてはじめて海外の舞台で「蝶々夫人」を演じた日本オペラ界の先達、三浦環女史が歌うこの子守歌が、当時、ラジオ放送でしばしば流されていたという話もあり、文学少女だったという彼女は、この歌が登場する新美南吉の名作童話「手袋を買いに」を読んでいた可能性も否めず、この子守歌を知っていたのかもしれない。私自身、物心ついて以来、この子守歌を聞くたびに、何か特別な懐かしさを感じてきたのも、まったく記憶にはないのだが、この幼少時の体験と無関係ではないような気がしている。そして、後に、歌詞の中にでてくる「Schlafe, schlafe in dem süßen Grabe (やさしいお墓の中でお眠りなさい)」という一節が気になり、なぜ「お墓」なのかという謎解きに頭を突っ込む羽目になる。

いずれにしても、今回の杉並公会堂での大村恵美子先生のバッハ公演にお招きいただいたことが、筆者の80余年の人生を、まるでパノラマのように描き出すことになってしまった。このご縁を作ってくくださった大村恵美子先生に心からの感謝を申し上げると共に、これからの合唱団のご発展と先生のご健康、そして、お幸せを心から祈ってやまない。

第115回定期演奏会 会場アンケート

今回のアンケートの当日回答数は64通、その後もファックスやメールでお送りいただき、本日(12/4)時点で、全68通になっています。ご来場者数625名の1割以上の方がお答えくださったこととなります。ご協力ありがとうございました。今後の企画と公演運営に役立たせていただきます。

演奏全般について、ご意見をお聞かせください

- ・すばらしかった。また来たいです。
- ・きくうちに絶好調。Sはきれい。Aはしっかり。特に男声の活動は刮目。
- ・本当にすばらしい演奏会、ありがとうございます。
- ・私には近づきにくい、難しい。「マタイ受難曲」の方がはるかに楽しめる。
- ・メンバー半数ほどは、セミプロの印象を受けた。
- ・やはりバッハは心ゆさぶられる。美しさに涙が出そうになるし、とても楽しかったです。7a)のフルート、すばらしいパフォーマンス!!!! 16)のオーボエ、うっとりしてしまいました。
- ・よく練習されていると思いました。
- ・よくがんばりました。
- ・オケがすばらしかった。
- ・すばらしかった。
- ・すばらしいコンサート。
- ・合唱は良かった(SIに伸びがあれば更に。ホールのせいもあるが)。室内オケにもかかわらず、合奏は素晴らしかった(Tp, Ob, Orgel)。
- ・22)のA独唱「小羊 世の罪のぞくもの」、涙が溢れる、心にしみるソロ。8)のA独唱「父の右に座する者よ」のオーボエダモーレ、歌心に感銘。
- ・すばらしかった。ブラボー!
- ・簡素で静かな雰囲気が良い。
- ・メロディーが楽しめて、よい選曲と思う。
- ・指揮者元気なし。
- ・たいへん良かった。
- ・Tがやや弱い全体として大変バランスが良かった。
- ・合唱の音量、もう少しあるとよい。
- ・合唱歯切れ悪く、聞き取れない。ソリスト(特にA)大変良かった。
- ・本当に心豊かにされ、感謝いたします!
- ・少しレベル低下?(高年化?)
- ・定演115回とはすばらしい歩み。毎回楽しく拝聴。
- ・しばし、いやしの空間をありがとうございました。
- ・大変な大作。合唱が圧倒的に多く、よくがんばりましたね。
- ・プロの演奏では味わえない感動があった。
- ・とても良い企画と思う。
- ・1)キリエ・エレイソン、鳥肌が立ちました。6)Gratias「み神に謝しまつらん」、涙が出ました。23)「平和をわれらに」はソリスト方も立たれ、全員合唱は感動の



■舞台ソデにて出を待つ。
[上]左からアルト(とソプラノⅡ)独唱の谷地畝晶子さん、ソプラノⅠの光野孝子さん、指揮の大村先生。

[左]バス団員の面々。
撮影：白井均(団員)

渦でした。

- ・バッハはやはり難しいですね。全パートのハーモニーの美しさが必要。
- ・今日の演奏はゆっくりと流れて心の奥に入った。
- ・この音楽は初めてで、とても感動。合唱もどの曲もとてもすばらしい。
- ・大変良かった。前半は少し求心力が弱いところもあったようだが、後半は盛り上がった。A独唱が特によく、感動、光っていたのはObとF1のソロ。
- ・大変良かった。
- ・バッハの信仰告白であるミサ曲が聞いて良かった。
- ・音楽が生き生きとしていてすばらしかった。私もそうだが、皆様バッハを愛していると感じた。
- ・合唱がレベル高く、今後の練習の参考にさせていただく。
- ・抑制的で端正、典礼曲にふさわしいアンサンブル。特に独唱がオペラの華美を廃し、とても良かった。ソロ楽器も確かなテクニックを持ちながら融けこんでいた。この曲は何度もきいているが、特筆すべき印象的なものでした。
- ・とても良かった。
- ・このような、めったに聴けない大曲を取り上げて頂いたことには感謝。その一方で、ちょっと、宗教曲にしては淡々と、世俗曲のように進行していく気も致しました。ソロでは比較的聞きとり易く、合唱だと聞きとりにくくなり、日本語訳の労力もどうなるのかという気はしました。
- ・バッハをもっと勉強したいと思うような、いい演奏会でした。合唱団の方々バッハをよく理解され歌っていらっしゃいました。f(フォルテ)の部分、音量があった感動的でした。
- ・天上の音楽を聴いているかのようで、心地良くて前半少し眠ってしまいました。
- ・全般に無難にまとまっているが、ミサ曲として何か心に響くものが欠けている。

- ・とても良かった。
- ・いつものオケとソリストの皆さんとの「ロ短調ミサ曲」ですから、安定しているように感じます。男声団員の人数が増えて喜ばしいことです。S・A ももう少し多くなるといいですね
- ・すばらしい。
- ・本格的な合唱を初めて聴き、声量の大きさ、ホールの反響、心地良い体への震えを感じました。
- ・すばらしかった。
- ・好きな曲ですが、初めて生で聴いてみてとても感激しました。時間の余裕ができたなら自分で唱ってみたいと感じた。最後の曲、感動した。
- ・全般に素晴らしかった。特に 7a) S/T の二重唱は、ことばがよく分かり、良かった。後半、圧巻でした。特に 12)~15)、涙が溢れ、救われた今がある身を感謝すると共に、至福の時を過ごすことが出来て、クリスマス前のとても信仰的に良い時をすごせました。最後の平和の歌は、今の日本のことを考え、祈りつつ聴きました。
- ・すばらしかった。
- ・よく分かった。すばらしい。
- ・今日のために、いくつかの演奏を 10 回ほど、通して聴いてきました。耳が慣れたのでとても聴き易く、感動しました。この季節、この曲に浸ることの喜び。新春歌舞伎の初舞台に似た感激であります（下世話な表現で失礼）。
- ・合唱は後半の乗りが良かった。A の谷地畝晶子、B の山本悠尋、初めてで、素晴らしかった。16) オーボエ・ダモーレに B が乗る感じ、20) フルートに T が乗るところがすばらしかった。
- ・日本語演奏であったこと、それがプログラムに印刷されていたことがとても感謝。バッハの演奏会で、バッハがルター派であることを意識して聴いたことは、今までありませんでした。しかし、今年は宗教改革 500 年目に当たり、バッハがルター派であったことを思い合わせて演奏を聴いておりました。11 月 19 日には教会で「宗教改革 500 年——十字架の神学」の説教を聴いていたこともあり、今日の演奏がそれに重なり、大変に感謝いたしました。特に「ニケア信条」以降は、演奏会ではありますが、礼拝説教を聴いているような感さえありました。ありがとうございました。
- ・今日仕事が入ってしまい、最後の 20 分位しか聴けませんでした。大村先生のお元気なお姿を拝見でき、うれしく思いました。そういえば、この曲は、父もよく聞いておりましたね。懐かしいです。ありがとうございました。
- ・合唱団、ソリスト、オケ、一体となってすばらしい演奏。メロディーとうまく合唱に溶けこんで練れていた。
- ・バッハの音楽にはまったく素人ですが、こんなに感激したことはありません。私には歴史に残る名演だっ

たと思えます。冒頭の第 1 音から緊張感みなぎり、泰然自若の音の流れに、エネルギー溢れる合唱の響きに心揺さぶられました。合唱の集中力から生まれる躍動感が、すべての音に溢れるように伝わってきます。「甦り」を歌い上げる歓喜の歌声に思わず拍手しました。先生の指揮は力強くお元気で、本当に嬉しく思いました。「平和をわれらに」という先生の思いがバッハの音楽に託されたのです。こんなに情熱的な指揮と演奏にめぐり会えて、感謝しております。[メール]

・115 回、貴合唱団の演奏会に夫婦で参加させて頂き有難うございました。新聞・雑誌等の情報によりコンサートの開催を入手、私自身初めて拝聴致しました。コンダクターを始め合唱団の皆様方の長時間にわたる熱演に感動致しました。お疲れ様でした。[メール]

とくに、日本語演奏について

- ・よくわかって良かった。
- ・S 美人、美声です。A 遂に新星現る。T 相変わらず素敵。
- ・時には日本語で聴くのも、良いもの。
- ・絶対良い。
- ・興味深い試み、好印象。
- ・若い時は原語。年を重ねる程に言葉がすぐ心に響いてくるほうが良くなった。
- ・歌詞のよく聴きとれない分、異和感がなくてよかったです。
- ・日本語演奏はかなり残念。教会では意味を伝えやすくするために、讃美歌を日本語で歌っても良いと思う。演奏会では音が大切なので、作曲家が想定していない発声はいかがなものか。讃美歌に聞こえた。字幕の方が意味もわかりやすい。
- ・ルターの改革の中の一つの重要な要素は自国語による礼拝ということでしたが、その精神にぴったり合っていると思います。
- ・ソリストはよくわかるが、合唱はよく聞きとれない。しかし日本語は母音が多いため、バッハの和声の響きは、良く感じとれました。
- ・カンタータでは大いに素晴らしかったと思っていたが、ミサは典礼文であり、さほどの長所は感じなかった。しかし意義は認める。9b) で「み霊」と訳していたのは、歌う上での語呂もあるかと思いますが、日本では神道（靖国）系の言葉でもあり（戦前からの課題ですが）、21 世紀用としては「聖霊」のほうが良いと思います（クリスチャンとして）。
- ・聴きなれたラテン原語の意味が、初めて分かった。音楽が素晴らしい作品は、歌詞の言語にかかわらず、感動するものだと思います。
- ・日本語演奏は初めて。意味がよくわかり、本当に良いと思った。
- ・分かりやすい。

- ・日本語上演は、どんな曲も難しく、ことばもききとれないものなので、原語で歌うのと違いを感じません。メロディーで聴いているので、とくに意識はありませんが、パートの掛け合いのときは原語のほうがハモリやすく思います。歌う側では、日本語であることで理解が深まり、より良い習得ができ、より良い歌になるような気がします。演奏者には覚えるのが難しそうで、そのためか譜面が離せないところが少し残念です。テノールの方、選曲にあった声でよかった。
- ・せっかくの日本語が聞き取りにくかった。
- ・大変良かった。
- ・興味深く視聴。これからも続けてください。
- ・過去に「メサイア」や「クリスマス・オラトリオ」を日本語で歌ったことがあります（赤い本です）、意味がわかっていいのだけど、どうしてもフレーズと合わないところがあったなあと思っていました。今回の演奏、とくに *Dona nobis pacem*（「平和をわれらに」）をきいて、アンコールも歌うことができ、改めて、その価値がわかりました。可能であれば、私の入っている団体に、会場で本日いただいた *Dona nobis* の楽譜を使わせてもらえたらなあ、と思っています。
- ・「口短調ミサ曲」を日本語で、という試みは面白い。
- ・大歓迎！ ことばの理解大切。大変助かります。
- ・ソプラノとテナーの発声練習をもっと。ポリフォニックな重なり歌詞は聞きとれない。
- ・親しみやすく、感謝しています。
- ・日本語演奏は初めて。今まで分からないままに聞いていたが、意味がわかった。双方とも良いと思う。
- ・今年召天の友人を想ってきた。「平和をわれらに」ほんとその通り。バッハの曲は最後に希望がある。久々にこの時期「クリスマス・オラトリオ」をききたくなった。一度一緒に歌うことを夢みている私です。
- ・宗教音楽だということがよく分かる。
- ・分かり易くとっても良かったです。
- ・ソプラノ I / II 二重唱 (2)、ソプラノ/テノール二重唱 (7a) など、特にソリストの歌唱の際、日本語ゆえに歌詞がよく伝わり、ありがたい。
- ・やはり日本語での演奏は少し無理があるような気がします。とくにテンポの速い曲。
- ・日本語のは今回で2度目、9b)の合唱〈み霊とともに〉が楽しく感じられた。
- ・外国語で歌うのとはちょっと違うが、日本語演奏もとても美しく、すばらしい。ホール音響もすごく良く歌声やオーケストラの響きが実に美しい。
- ・日本語にすることで、全体の構成が分かり易くなったと思います。ただ聞きとりにくい単語もあるので、さらなる工夫を。
- ・聖書からの抜粋ではありますが、キリスト教のイロハを知らない方であっても母国語で理解しやすく、こころ癒される時をもつことができ、なおかつ福音を！というのがありますから、感謝です。

- ・最後の「平和をわれらに」は泣けました。
- ・意味が聞きとれて良かった。
- ・聴衆に分かりやすい。
- ・全く異和感がなかった。バッハもお許しになるでしょう。
- ・歌詞の内容がよく理解できてよかった。
- ・ソロ部分では比較的聴き取りやすいですが、合唱だと聞き取りにくくなり、そうすると日本語訳作成の労力がどれほど効果をあげるのかな？という気はしました。ミサ曲は典礼文でもあるし…。もっとも、歌詞の響きは無視して曲を付けられるので、オペラや歌曲よりは馴染むのかも、とも思いました。
- ・バッハの日本語演奏は初めて聞きました。やはり意味がわかって歌った方が、聞き手にわかりやすく、バッハになじみのない方にもバッハが身近に感じられると思いました。
- ・ラテン語だと全然理解できない（有り難い感じもしないではないが…）。日本語で内容が理解できるほうがよい。
- ・普段から聴いていないのでなじめなかった。
- ・くり返しの詞が多いので、何度も訳詞を見ることなく、集中して聴けました。分かりやすいと思いました。途中でパートの位置を替えるのも新しい趣向だと思いました。
- ・意味が分かることはとても大切だと思いました。
- ・日本語演奏には、敬意を評します。
- ・すべての詞の意味が分かるわけではないのですが、分かる、聞き取れることばが自分に向かっていることは心地良いです。
- ・意味がよく分かった。感動しました。
- ・できれば原語のほうが好みます。
- ・日本語で歌われても、意味がよく伝達しないと思った。
- ・「いと高き」と「キリスト」が耳に残り、意味がよくわかりました。
- ・日本語で歌うことがすばらしい！
- ・浄瑠璃同様、詞に命が宿っているわけですが、ラテン語であろうと日本語であろうと Bach の仕事(Kunst)、芸術は揺らぎません。聖書を日本語で読んできた日本人にとり、日本語はとても分かり易い。カンタータも日本語なら理解が深まりますね。来年5月12日(116



■アンコールに、終曲「平和をわれらに」*Dona nobis pacem* を全員で歌った。

定演)に期待しています。

- ・パンフレットと照らし合わせて聴いたので、分かり易かった。
- ・「待ちのぞむ」(17b)のところ、日本語がぴったり。
- ・アンコール(23)、ラテン語で歌ったことがあるので、合唱と一緒に歌った。いきなりで高音は出しにくかったけれど、ついてゆけて楽しかった。
- ・最初に聴いたとき異和感はあったが、わかりやすく、溶けこんでいった。

その他、本日の運営全般、会場等、何でも

- ・運営は行き届いている印象を受けた。
- ・杉並公会堂は、大きさが丁度よいと思いました。
- ・先生ともども皆様に祝盃。先生お元気で!
- ・響きは府中の森[芸術劇場ウィーンホール、111回(2014.12)、113回(2016.5)、114回(2016.12):編集注]のほうが良い。
- ・開場時間がすこし早くて、助かりました。大村先生のお顔のお汗に感動しました!
- ・開演前、途中の案内の声がきこえなかった。
- ・アンコールが分からなかったです。
- ・とても音響効果の良い会場。
- ・よく響く会場。すばらしいホール。一同で歌う時はもっと明るく。「平和をわれらに」と一緒に歌えて良かった。ありがとうございました。
- ・いつもご案内いただき、ありがとうございます。先生初めとし、種々のご準備大変と存じます。団員の皆様のご健勝をお祈りいたします。
- ・駅から近い会場で助かる。
- ・15分の休憩はやや短かったです。
- ・2年ぶりに参りましたが、今回も感動のひとつ!先生がお元気で本当にうれしいです。益々のご活躍と主のご祝福を心よりお祈り致します。
- ・ホールの音響もすごく良く、合唱団の歌声やオーケストラの響きが実に美しい。
- ・コーヒーサーブがあって良かった。合唱がレベル高く、今後の練習の参考にさせていただく。
- ・室内楽規模の演奏会に、今日の会場は良かったと思います。「クリスマス・オラトリオ」のCDセットを購入しました。帰宅して楽譜と合わせて聞くのが楽しみです。できれば、楽譜を単独でも購入できるように、他に何種類かおいていただけたらと思いました。
- ・視聴覚障害者をお連れし(ぶらあぼ誌で当たって)、大変喜ばれました。ありがとうございます。
- ・いい音響の会場で満足だった。
- ・新しいアルトの方の声も、発音も分かりやすく美しかったです。ソリストの方々の魅力も、合唱と相まって好ましいですね。
- ・時に適って与えられたコンサートに感謝。
- ・お見事です。

- ・ギリギリの時間に入ったにも関わらず、前の席を案内していただき、ありがとうございます。
- ・初めてのホール、快適だった。楽曲の詳しい解説がのっているパンフをもらえてうれしかった。隅々まで読んだ。
- ・素晴らしいです。
- ・コンサートの案内など送ってください!
- ・独奏パートは皆さん、とてもお上手です。谷地畝さんのソロ、いいです。
- ・よかった。飲料の自販機がほしい。
- ・最後の全員合唱の時、会場の電気が暗くなって見えにくかった。
- ・2階席を、最初から開けてほしい。
- ・合唱「主は甦りたもう」(15)が良かった。アンコール「平和」が良かった。

一次回公演ご案内ー

第116回定期演奏会

バッハ教会カンタータ 日本語上演

2018年5月12日(土)、14:00開演
武蔵野市民文化会館小ホール

カンタータ第178番《主 われらに いまさずば》

Wo Gott der Herr nicht bei uns hält BWV 178

カンタータ第176番《抗い また怯むは こころの常》

Es ist ein trotzig und verzagt Ding BWV 176

カンタータ第177番《呼びまつる イエスよ》

Ich ruf zu dir, Herr Jesu Christ BWV 177

カンタータ第1番《あしたに輝く 妙なる星よ》

Wie schön leuchtet der Morgenstern BWV 1

ソプラノ=光野孝子、アルト=佐々木まり子

テノール=黄木 透、バス=小藤洋平

オルガン=草間美也子

オーケストラ=東京カンタータ室内管弦楽団

合唱=東京バッハ合唱団

指揮=大村恵美子

チケット発売:2018年2月1日予定

合唱団員募集

上記公演に参加する団員を募集しています。資格はバッハ音楽と合唱が好きなおこと、経験は問いません。

- ・土曜日=15:30-17:30、荻窪教会(JR中央線「荻窪」)
- ・月曜日=18:30-20:30、目白聖公会(JR山手線「目白」)

年末年始の練習予定

- ・練習納め:12月16日(土)の荻窪教会クリスマス・コンサートをもって終了。
- ・練習始め:2018年1月8日(月)。ただし、この日のみ臨時に、会場:荻窪教会、18:30からとなります。あとは上記のとおり、毎週土曜日と月曜日。両方、またはどちらでも。見学歓迎。資料ご請求ください。連絡先=月報タイトル枠内。詳細=<http://bachchor-tokyo.jp/>